

寺
こよみ

一 月

一日 修正会
三日 お寺の学校かるた会
四日 栗虫・本山助成会
六日 栗虫報恩講
七日
一二日 ご正忌準備
おけそくづくり

（一）正忌報恩講

一三日 昼一時 速夜
一四日 昼一時 速夜
一五日 一 時 お講（下村）
昼一時 速夜
一六日 一 時 お講（浦山・
栃屋・熊野・大橋）
昼一時 満座
布教 滋賀県弘誓寺住職
那須野浄英師

一四日 善巧寺若婦人会花の会
一七日 十七夜お経会

寺 報
善 巧

発 行
〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
白雪山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975



移転したお墓（右端）から見る本堂と親鸞聖人像

空華の里を訪れることは、行信教で空華学派に入門を許され、先哲諸先生の御教化を賜った者にとって身の引き締まる思いであります。

この度私、善巧寺様の「御正忌」法要にご縁をいただきます。何卒よろしくお願い致します。

自己紹介は、法要の際おめにかかりましてと思っております。

さて、ここでは、今回のご法縁での概要を述べておきます。

まず、「正信偈」の「往還回向由他力」のおこころから味わい、このお言葉が浄土真宗の最も大切な、また特徴を持つ意味深いお言葉であります。すくことを取りつぎ致したく思います。

御法座の始まります前に『聴聞の心得』

を参拝のみなさんと唱和されますお寺があります。そうそう、善巧寺・明教院僧侶和上の『僧侶の心得』がありました。おうかがいした際にもう一度聞いて。この『聴聞の心得』は、『歎異抄』後序「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずればひとえに親鸞一人がためなりけり」

往還回向由他力

のおことばの「一人のため」と言われる言葉のころを、「今日のこの法縁はわたし一人のためなり」とよくよく味わいたいのです。もともと私は仏様の前に座り・仏様の仰せを聞かせていただく者ではないのです。ここに他力真宗の奥義を味わいたくおもいます。

次に仏様の言葉（仏語）について、日頃私たちが用います言葉の中にふくまれています。乱雑に用いられますから世俗の言葉（俗語）になつていきますので、注意深く味わいたく思います。殊に蓮如上人は、仏法と世法を明確になされ、私たちが何よりもよりどころにするのは仏法であることを明示されましたことをうかがいます。

当日、如何になりますか。御門徒のみなさまにおめにかかることを、楽しみと緊張とをいいただきながら伺います。何卒よろしく御指導くださいませ。

称名裡

滋賀県弘誓寺住職

那須野浄英師



空華忌講話

高田 慈昭 先生

(平成七年十一月五日)



ブラジルは治安がよくない。

毎日のように強盗殺人事件があります。私もある日、白昼、三人組のピストル強盗に襲われました。金庫の鍵を出せ、出さなかつたら代表者を殺すと言いましてね、私の頭にピストルをつきあてた。二世の職員が、「金庫の鍵を出せ、出さなかつたら殺す言うとります、この人たちは本当に撃ちますよ、金庫の鍵をだして下さい、総長さん死ん

でもろたら困る。」と言いました。それで私は、こんな所で強盗に襲われて撃たれてたまるかい、やむをえんと、職員に「金庫の鍵を出しなさい、みんなの命を守るために、命に変えられんから。」と言った。その職員はかわいそうに背中ピストル突き付けられて、強盗の二人を案内して行つた。残った一人の強盗が、残った我々に向かつてピストル向けとる。そのうちに「お前らの手に持つてゐる腕時計とかアクセサリ、女の人だつたらイヤリングとかネックレスとかあるいは財布をみんな出せ。」と私の方に來てポケットに手をつつこんで財布をとつた。私も本願寺からもらった金縁の懐中時計持つておつたが、ころつととられてしまった。それからとつたものを自分のポケットに

入れまして、そして強盗の二人は事務室の方に行きまして、金庫を開けさせて、まとまったドルをゴツゴツとりまして、他にワープロ二、三台、新しい自動車も取つて逃げていった。すぐ警察に電話をしたら、警察の來るのが遅いんです。四十分くらいしてやつとパトカーが來まして、「どうやった、命大丈夫だったか。」とこう聞く、「幸い誰も傷つかなかつた。」と言うと「それはよかったのう。」と言つて、現場検証も何も無い。自動車から足を一歩出したままでそれを聞いて、盗まれた自動車のナンバーだけを書きつけて行つてしまった。私は警察官に絶対新聞社に言わんでくれ、新聞に出さないでくれ、といいました。新聞に出されて別院にまとまったドルがある、ということが分かつたら、第二第三の強盗に狙われますから。それで絶対に新聞に載せさせなかつた。みんなショックでね、職員もみんな青くなつてしまつてね。ブラジルに何十年も住んでいていけどこんなこと初めてだと言ふ人がいる。歴代総長十二人の私十二代目の総長だつたけど、私が初めてだった。私はそれから早速会議を開きまして、盗まれた物をどうやって保障するかということ協議

しまして、そして本山にも要点を報告しました。しかしやつぱりショックでね。その頃は、ブラジルに行つて一年足らずくらいの時で、私もちよつとブラジルの生活にも仕事にも疲れていまして、ストレスがたまつておつた。そこへこの事件でしょ。私はもうあかん、こんな所におれんと思つて辞表を書いたんです。そしていつ帰ろうか、どういう風にしてこの辞表を本山に届けようかと思つてゐる悶々の時を過ごしていた。毎日職員と一緒に夕事を勤めるんですが、らしいのうたの後必ず礼讃歌を歌うんです。「いづくにも」「やすかりし」という歌がございますね。あの礼讃歌の五番目の歌があの九条武子さんの歌です。「あはれわれ生々世々の悪をしらず、慈眼のまへになにを甘ゆる」ある日この言葉が私の胸に突き刺さつたんです。慈眼（じげん）というのは、阿彌陀さまの慈悲の眼。何を甘えるというのは、甘えてはいかんといいことです。阿彌陀さまのお慈悲はどんな悪人をも救うてくださるといいながら、煩惱に妥協し阿彌陀さまのお慈悲に甘えてはいかん、という厳しいお諭しです。九条武子さんはご存知のように九条家に行かれた本願

寺のお嬢さんですが、九条家へ行かれて随分ご苦労なされた。しかしその苦しみの中で深くご本願を味わわれた、お慈悲を味わわれた、すばらしい人生を送られたのが九条武子さんです。たくさんさんの歌が残つています。逃げて帰ろうなんて、お前、それは甘えてはおらんか。長い長い流転の中でどれだけ煩惱罪業を作つてきたかわからん。それをお前はなんと思つておらんか。いくら悪人を救うというお慈悲ではあるけれども、そんな無責任なことをして良いのか、甘えて良いのかというお諭しが私の胸につき刺さりましてね、それで、私は決心しました。今こそ念仏者としての証しを立てねばならん。例えばピストルで撃たれて殺されても、この任務は果たしていかなければならない。仕事を放り出して日本に帰るといふことがあつていいのか。それこそ阿彌陀さまに申し訳がない。もし命終つたらそこが浄土ではないか。いよいよ親さまの待ちわびたもう安養の浄土へ參らせていただくんじゃないか。そう思つて、親鸞聖人の書かれた浄土和讃のあの和讃を深く味わつていただきました。「妙土広大超数限 本願莊嚴よりおこる 清浄大摂受に 稽首

婦命せしむべし 宝林宝樹微妙
音 自然清和の伎楽にて 哀婉
雅亮すぐれたり 清浄楽を婦命
せよ」親鸞聖人が深く味わって
喜ばれた浄土和讃をじつとかみ
しめて味わっていたならば、私
がここで命が終わってもそこに
は広大な浄土の莊嚴の世界がちゃ
んと待っている、そう思うと、
撃つなら撃てという、聞き直っ
たような、明るい気持ちになり
ました。そして恥ずかしかった
なと思つて辞表を破つてそして
焼いて捨てたのであります。そ
れからは本当に聞き直つたよう
な気持ちで、どんなことが起こ
つてきても、いつも阿弥陀さまと
一緒である、もし撃たれて死ん
でもお浄土だ、というような気持
ちになつて、おかげ様で四年間
無事に勤めさせていただいたわ
けでございます。

ぬもよし、生きることもありが
たいが死ぬこともありがたい、
こういう世界を一段と味わわせ
ていただいた時に、なにものにも
恐れのないような、俗で言えば
聞き直つた気持ちになつて、しつ
かりご恩報謝の気持ちに向かつ
て命のあるかぎりの日暮しを勤
めねばならん、という気持ちを
持たせてもらったことは非常に
ありがたいことであります。
悪を転じて徳となす、そういう
逆縁が、かえつて私に仏法の味
わいを深めさせていただいた、
と思うと、ああありがたいこと
じゃつたなあと、手を合やすよ
うな気持ちなんでございます。逆
に言えば、あの事件がなかった
ら、自分のご信心の味わいを確
かめるその味わいを持つという
ことさえも、そのままになつた
かもしれないけれども、あれを
通してかえつて喜びや味わいを
深めさせていただいたというこ
とになると、大きなお育てであ
りましたなと思つて、喜ばして
いただいております。今日ございま
す。浄土真宗のご利益はマイナ
スがいつもプラスに転じていく、
これが本当のご利益だ。こうい
うことをかみしめて味わわせて
いただけるということが本当に
ありがたいことでございます。

(完)

第十一回国民文化祭96こやま 国際こども演劇祭開催される 10/5

さる十月五日、国際こども演
劇祭が宇奈月国際会館セレネで
行われました。国内外の演劇関
係者や町内の小学生、町民など
六百名余の拍手の中、雪ん子劇
団がトップをかざりました。



また、前夜行われた宇奈月町
歓迎レセプションには、雪ん子
ジュニア・シニア・スタッフ全員
が参加し「明日にむかって」の
大合唱で歓迎の心を表しました。
国際交流員トッドさんに習った
英語を駆使(?)して、ちびっ
こ達も沢山の外国人と握手を交
し、シニア達は、盛岡の劇団や
各国の劇団員達と交流の花を咲
かせました。



海外からの参加団体は
二十七カ国三十九団体を
数え、過去の開催地に比
べて群を抜いた。富山国
際演劇祭・国際こども演
劇祭には二十四カ国が出
演し、演劇が盛んな富山
の持ち味を強くアピール
した。

は「桃次郎の冒険」を上
演、外国人の観衆からも
大きな拍手を浴びた。ロ
ビーで「ワンダフル」と
握手を求められた出演者
の新保博子さん(三三)は
「楽しんで演じることが
できた。言葉は違つても
通じるものがあつたみた
い」と顔をほころばせた。



(北日本新聞
10月10日朝刊)



雪山 玲子さん

演じることで知る 自分でない別の人間の心。

—— 雪ん子劇団17周年 明るくのびのび育つ子どもたち ——



弱い子の辛い思いに気づいたA君

司会●10周年を迎えられた時に吉岡たすくさんからすてきなメッセージをいただかれたそうですね。

雪山●主人がNHKの放送劇団で吉岡先生にご指導いただいたのがご縁で、10周年の時に「演じる」「子どもとともに」という詩を贈ってくださいました。

演じる
子どもたちが劇に取り組んでいる
子どもたちが一生懸命に演じている
目が輝いている
顔が生き生きしている
体が素直に動いている
子どもが自分ではない
別の新しい人間を演じている
その中に、子どもがみえ
新しい自分を発見していく
演じることはすばらしいことだ
子どもとともに
子どもたちと話し合う
子どもたちと考える
子どもたちと作り上げる
子どもたちと劇の中で生きる
子どもたちと
人間の生き方を体を通して知る

雪山●演劇というのは模倣、疑似体験だと言います。ですけど、自分でない別の人間を演じることによって、その人の心を勉強するわけですよ。

全然自分じゃない人ですから、よくわからない。でも、「こんな人はこんなことを考えているのかな」と考えながら、相手の立場を知っていく。

司会●それと、演じられたときに「ひょっとしたら自分の中にもそういう部分もあるかもしれない」という“気づき”もあるような気がしますね。

雪山●ずいぶん発見もあると思いますよ。それで、おもしろいエピソードがあるんです。

これは発足当時のことですが、クラスでいちばん体格のいい男の子で、保育所のころから目立っていたA君と、頭はいいけれど小さくて弱いB君がいたんです。その二人の配役がちょうど逆だったんです。大きい子がどっちかというといじめられる役で、弱々しい子のほうがいばる役だったんです。両方とも困ったんですよ。いつもいばってない子が、「僕のパパは偉いんだぞ」と言わされると、言えないんですよ。もぞもぞして遠慮っぽく言うんです。

片や、A君のほうは、いつもいばっているのに「なんだおまえのお父さん」といじめられてしまう。もう全然納得できないわけですよ。練習しても元気がないし、しまいには「俺こんな役いやや。こんな役だれが決めたん」と、くっつかかるんですよ。それで、なぜいやなんだと聞いたら、「こんな弱い役は割に合わない



と言うんです。

そしたら、主人はA君にこう言ったんです。「そうやな、おまえはとてもいいことに気がついたね。君は今、弱い子の心が少しだけど、やってみてわかったんじゃないか。弱い子っていうのはね、いじめられたりして『いややなあ』『割に合わないなあ』と思ってるんだよ。永六輔っていうおじさん知ってるかい。あの永六輔っていうおじさんは、『本当に強い子っていうのは、弱い子の立場がわかって初めて強い子って言える』って言ってたよ。君まさにそうやないか。割に合わないと思いつつ弱い役をやらせてもらったことによって、君は本当に強い子って言えるんだよ」と言ったんですよ。

俺は強い、これでいいんだと思っていた。その自分の向こう側に、「とってもいやだな」「寂しいな」という思いの子がいたんだということを知る。これはすごいことですよ。

人間というのは、いつも自分が自分がという生きものだけれど、「やっぱりみんな生きてる人間同士。相手のことを考え、思いやろう」という仏様の慈悲の心を、子どもたちは体で、違う役をやってみて、「ありやー、そうやったのか」「そういう子がいたんだ」ということに気がついてくれる。とても大きな学びだと思いますね。

「みんな主役」は、雪ん子劇団の合い言葉

司会●配役については悩まれるんでしょうね。

雪山●子ども一人一人に生き生きしてほしいという願いがありますし、一方みんなに役を与えたいという思いもあります。

ある卒業生から聞いた話なんですけど、公演に行くとき、必ず主催者の方が「今度の主役はどの子ですか」と聞くそうです。「聞かれると必ず男先生も女先生も『いえ、みんな主役ですよ。今日の子どもたち、全部主役の子を連れてきました』と言ってくださった。6年間たい



善巧寺歴代住職の墓移転 11月



お父様とくまさん、寺報にありがとうございました。いつも温かく迎えて下さり、ありがとうございました。お悔み申し上げ、先の方読者新聞拜見。とてもよい記事でした。ね、感動しました。隆弘さんのように、病氣くしゃくしゃと私も言ってみようと思いましたが、いじ

▲柳家小三治 師匠より

残し、移転と参道の整備は中陣の総代、丸田久次さんのご子息丸田石材の清春さんをお願いしました。周囲の

二年ほど前から総代会及び寺報でもお伝えしていましたが、文久二年、現在の本堂の裏裏に再建されたお墓を、このほど境内の明教院僧鑑法師のお墓の横に移転しました。墓石は古くなっ

てはいますが、そのままの形を 使用する予定です。 移転の為の杉の伐採等は木村造園にお願いしました。又切った杉二本は、本堂の縁の修復に



11月1日 愛本新お講



関西での生活も八年目になる。今年度でここを離れると思うと少し心細い。 今日授業で先生にこんな質問を受けた。「君の命が明日で終りだとするとうする？」その立場になつてみなければわかるはずはないが、想像するという意味ではなかなかおもしろい。 もし僕の命が明日で終りだすると、僕はとうするだろう。僕は今論文を書かなければなら

いやらなくなると思う。こう考えてみると、今僕がしていることは何も出来なくなってしまう。 黒沢明監督の「生きる」という映画がある。この映画はある会社の課長が主人公で、彼は胃がんである。 しかし、本人はそのことを知らない。物語は、仕事場で主人公が机



若院維感

この映画での「生きる」という概念は「自分の命も必ず死んでゆく命で、そんな命を今生かさせていると気付く、今自分は何をすべきかを考え行動する」というようなことであると思う。

頭ではわかっていてもなかなかできることではない。このようなことを考えていると、父の言葉が思い出される。「次は終点、次は終点。お忘れものがないように。」自分が楽しかったり充実している時は、生きていると実感するけれど、いざ逆境に入ると、条件さえそろえば自らの命も絶つてしまふかもしれない。けれど、聞くべきことがあるというのは幸せだと思ふ。「次は終点」ということを頭に置きながら「お忘れもの」がないように生きていきたい。 行信教校に残すところあとわずか。片手間にならないように努力したい。

寺 二 月

一日 お講(浦山)
三日 市報恩講
六日 生地・荻生報恩講
一四日 お講(下立)
一六日 十七夜お経会
一八日 下立報恩講
一九日 舟見報恩講
二二日 雪ん子劇団砺波公演
二五日 入善・八幡・泊報恩講
二六日 栃屋・熊野報恩講

寺 三 月

一日 お講(浦山)
四日 浦山報恩講
七日 仏婦連盟黒西組総会
一四日 善巧寺仏教婦人会白鵠会総会
一六日 お講(栃沢)
一七日 十七夜お経会
二十日 総代会教化推進協議会
二二日 雪ん子劇団春の公演
二四日 雪ん子シア神戸公演
三十一日 けいこ開始

御正忌報恩講

一月十三日 昼一時 速夜

十四日 昼一時 速夜

十五日 十一時 お講・下村

昼一時 速夜

七時半 初夜(古いうそくを
おもひ下さい)

十六日 十一時 お講・浦山

昼一時 満座

布教 本願寺布教使 那須野浄英先生

御正忌報恩講は、宗祖親鸞聖人の祥月法要です。聖人の遺徳を偲びつつ、ご恩に報謝するもので、真宗門徒にとつて最も大切な行事です。必ずおまいりください。
十三、十四日は若院。十五、十六日は、滋賀県弘誓寺住職、那須野浄英先生のご講話です。

新総代さん紹介

(一)内は旧総代さんです。敬称略。
入善町板屋 嶋田道幸(嶋田松伊) 旧総代さん、ありがとうござい
黒部市中陣 丸田久次(丸田賢一) ました。今後は顧問としてご指
黒部市枳沢 藤沢利雄(開沢利雄) 導ねがいます。
どうぞよろしく願います。



嶋田道幸さん



丸田久次さん



藤沢利雄さん

今年はお年賀のご挨拶は失礼させていただきますが、本堂にはお酒やカレンダーの用意があります。除夜会、修正会(おつとめ七時)にお参りください。

雪ん子シニア

演劇集団らぶばあと

共同制作

『神戸・板橋公演』

実現か?

神戸の復興は表面だけ。まだまだ悲惨な状況の人々は沢山います。「私達には忘れてはならないことがある」そんな舞台を作りたいと神戸ろうあ協会会長が実行委員会を作りしました。そして、雪ん子シニアに出演依頼がきました。是非良い舞台を作りたと思います。歌に自信のある人、すてきな舞台づくりをしたい人募集中。
公演は八月二十日から一週間の予定。

雪ん子劇団春の公演

三月二十三日(日)午後三時

お寺座Ⅱ(門徒会館二階ホール) 入場無料

雪山玲子のあえてよかつた

北原光聞書

「ウバーリの出家」との「別れ」(死)となど仏典アニメ物語は何か。隆弘さんの「生前と死後」の生活そのまを語る玲子さんの言葉にその答えが示される。そしてみ教えを依りどころにした人生とは何か、夫婦のあり方はどうあったら良いのか、たぐさんの七回忌に当たる。隆弘さんの夫人で、その数え切れない行動を共にして、亡くなった後も雪ん子劇団など隆弘さんのことともに活躍を続けている玲子さんへの聞き書きが本書である。
聞き手は、月刊「信仰」(百華苑刊)で、信仰に生きる人の紹介を続ける北原光さん。
人間の世界における人
「ウバーリの出家」との「別れ」(死)となど仏典アニメ物語は何か。隆弘さんの「生前と死後」の生活そのまを語る玲子さんの言葉にその答えが示される。そしてみ教えを依りどころにした人生とは何か、夫婦のあり方はどうあったら良いのか、たぐさんの七回忌に当たる。隆弘さんの夫人で、その数え切れない行動を共にして、亡くなった後も雪ん子劇団など隆弘さんのこととともに活躍を続けている玲子さんへの聞き書きが本書である。
聞き手は、月刊「信仰」(百華苑刊)で、信仰に生きる人の紹介を続ける北原光さん。
人間の世界における人

合 掌

一、初まりり二十周年
二、雪ん子劇団宮崎へ
三、広島清胤先生一行来院
四、夢を語る会ゲートボール再開
五、二十世住職俊之法師入寂
六、こども盆踊り二十周年
七、二十一世住職隆弘法師七回忌
八、いちようの下のコンサート
九、雪ん子国民文化祭に出演
十、法輪寺初孫誕生

悲喜こもごもの一年でした。「お世話になります。ありがとう」という父の声が、車椅子に乗った父の姿が思い出されます。もつとやさしく、もつと話をすればよかったと悔やむような生き方をしているいけないと身にしみて感じます。
本当の意味で生きているかと問いつづけながら、善巧寺の二十周年行事が増えてきました。大切な心が大切に引き継がれてきています。

ゆくものあれば来るものあり法輪寺に初孫「哲心くん」誕生。有哲おじいちゃんの顔が綻びます。今年には善巧寺に若い住職が誕生する節目の時。老いも若きも一つになっての再スタートです。どうぞよろしく!

